

大豆栽培情報（9月号）

令和7年 8月29日
福岡大城農業協同組合
南筑後・久留米普及指導センター

梅雨明けが早かったため、播種は7月3日頃から始まり、7月20日前後にはほぼ播き終わりました。生育前半は高温乾燥による生育抑制が見られましたが、8月上旬に定期的な降雨が続いたことで、生育は回復し旺盛となっています。開花期は、7月6日播種のほ場で8月21～22日頃です。カメムシ類・ハスモンヨトウ・紫斑病を対象とした3種混合防除は、開花後20～30日を目途に実施します。

なお、カメムシ類による被害防止には、開花後20日と40日の2回防除が効果的です。本年はカメムシ類が多発生しているため、2回防除を徹底して青立ち株低減に努めましょう。

（※本情報掲載の農薬登録情報は令和7年8月25日現在）

【3種混合防除/9月中旬（開花後20～30日後）】

	農薬名	希釈倍率/10a 当り使用量	収穫前日数	対象病害虫
液剤 /乗用 管理機	グレース乳剤 または プロフレア SC	2000～3000 倍/100～300L	14 日前まで	ハスモンヨトウ
		2000～4000 倍/100～300L	前日まで	
	スタークル顆粒水溶剤	2000 倍/100～300L	7 日前まで	カメムシ類
	トップジンM水和剤	700～1500 倍/100～300L	14 日前まで	紫斑病
無人 航空機	プロフレア SC	16～32 倍/0.8～1.6L	前日まで	ハスモンヨトウ
	スタークル液剤 10	8 倍/0.8L	7 日前まで	カメムシ類
	アミスター2070アブル	16～24 倍/0.8L	7 日前まで	紫斑病

!!注!! 無人航空機防除体系では、薬剤の沈殿を避けるため、使用直前に混合する。

【補正防除/カメムシ類：開花後40日後頃、ハスモンヨトウ：多発時】

カメムシ類の発生が多いため、補正防除を実施します。ハスモンヨトウによる食害葉の発生が多くなってきたら、グレース乳剤もしくはプロフレア SC で補正防除を実施します。

	対象病害虫	農薬名	希釈倍率/10a 当り使用量	収穫前日数
液剤 /乗用 管理機	カメムシ類	スタークル顆粒水溶剤 またはキラップ70アブル	2000 倍 /100～300L	7 日前まで
無人 航空機	カメムシ類	スタークル液剤 10 またはキラップ70アブル	8 倍 /0.8L	7 日前まで
			16 倍 /0.8L	

☆農作業時の熱中症に注意しましょう!!

●日中の気温の高い時間を避け、涼しい時間帯に作業 ●こまめな休息と水分補給

【農薬の安全使用上の注意】①散布前に必ず農薬ラベルの登録内容等を確認！ ②散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！ ③散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！ ④防除履歴の正確な記帳！